

# 報恩講

うしな 失ったものを  
かぞ 数える人あり  
あた 与えられたものに  
かんしゃ 感謝する人あり

Some people count what they have lost,  
while others appreciate what they have been given.

真宗教団連合2022年法語カレンダーより



ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

50  
立教開宗  
800

## 2023(令和5)年

### 慶讃法要日程

#### 第1期

3月29日(水)～4月 3日(月)

#### 第2期

4月10日(月)～4月15日(土)

#### 第3期

4月24日(月)～4月29日(土)

#### 第4期

5月 6日(土)～5月11日(木)

#### 第5期

5月16日(火)～5月21日(日)

本願寺(西本願寺)にて修行

御同朋の社会をめざす運動(実践運動)

兵庫教区委員会

## 「ご恩に生かされる」

― 花が咲いているところに必ず種がある ―

ものが生じている事実について、「結果から原因」へとその必然性を見ていく、これが仏教のまなざしです。逆に、「種があるところに必ず花が咲く」という「原因から結果」では必然性を語ることはできません。たとえ種（因）があっても、太陽の光や水の不足などによって、必ず花（果）が咲くとは限らないからです。このような因果関係は、私たちのいのちも同じです。こうして私という結果が生じているのは、必ず原因があるということです。両親をご縁に生まれ、様々な支えによって私のいのちは生かされています。そうした私のいのちをあらしめているものを「恩」というのでありましょう。なるほど、「恩」という漢字は「因」の下に「心」があります。つまり、私という結果を支えてくださっている原因に心を寄せていく、その気づきの中で開かれる世界が「恩」である、とても仏教的な言葉だと思っています。

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人は、この「結果から原因」という仏教のまなざしの中で、阿弥陀さまを仰いでおられます。

しかれば、もしは行、もしは信、一事として阿弥陀如来の清淨願心の回向成就したまふところにあらざることあることなし。因なくして他の因のあるにはあらざるなりと、知るべし。（『浄土真宗聖典（註釈版）』二二九頁）

私がお念仏に出遇っているというところに、阿弥陀さまのおはたらきがないということは有り得ない。言い換れば、今こうして仏法に出遇い、お念仏させていただいているという「いま」（果）には、必ず阿弥陀さまのおはたらき（因）があるのだと仰っています。

振り返れば、仏さまの教えを聞こうとしなかったこの私が、お念仏に出遇っているということは不思議としか言いようがありません。しかし、そこには「お願いだからお念仏を称えてこの人生を歩んでほしい、そしていのちの縁が尽きたならばあなたを必ずお浄土へと生まれさせましょう」という阿弥陀さまの願いが「南無阿弥陀仏」という言葉となって私を包んでくださっていたのです。

報恩講とは、阿弥陀さまのみ教えを私に伝えてくださった親鸞聖人のご恩に感謝させていただき、浄土真宗で最も大切なご法要です。お互い様にこのご縁に遇わせていただきますように。



阪神西組信行寺 四夷法顕